

ちようふ環境市民会議

第14回定期総会

議案書

2022. 5. 15 (日) 15時～

あくろす研修室 2

議案項目

第1号議案	2021年度事業報告	P. 1
第2号議案	2021年度収支報告	P. 10
第3号議案	2021年度監査報告	P. 11
第4号議案	2022年度事業計画案	P. 11
第5号議案	2022年度予算案	P. 14

■第1号議案 2021年度事業報告

○2021年度活動方針

○規約にかかげた活動目的・方針にもとづき、活動を楽しく行います。

- ・東日本大震災後、都市に住む市民の暮らし方が問われています。暮らしを根本から見直し行動する「私から始めるエコライフ」の活動に引き続き取り組みます。また、新型コロナウイルス感染防止対策など、新たな市民生活への制限に関わる事態も生じてきています。私たちの生活様式の変化を余儀なくされる中、環境にやさしい生活・持続可能な社会をめざした暮らしを考えていきます。
- ・調布市の自然環境をはじめとする「環境」について、環境を考える市民・事業者・団体に向けて活動で得られた情報や知恵を共有できるよう連携して活動していきます。
- ・市民・活動団体・企業等との連携を図るプラットフォームとしての役割を担う上で必要となる、市民向け環境情報の受発信の基地等についても検討していきます。
- ・予算要望活動により、これまでの環境学習交流推進事業委託の他に、前年度に引き続き ①環境基本計画を実効性のある計画とするための環境学習のための講座開催②国分寺崖線ウォークイベント事業の業務受託を行います。

また、環境基本計画の中間見直しを行うなかで、ちょうふ環境市民会議が市民との協働の実践を実質的に担う位置づけはかわらず、その役割と責任が大きくなっています。新しく理事の参加により、多様で柔軟な視点を取り入れながら、2021年度もプロジェクト(PJ)ごとに事業実施に取り組みます。

これら多岐にわたる委託事業や自主事業を継続していくプロジェクトチーム(PJ)には、多くの会員のご協力をお願いいたします。

- ・今後も継続して環境保全活動を担う人材確保のため組織運営の再構築についても検討します。

※ 「第13回定期総会」は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のためメール配信により書面議決とさせていただきます。

○2021年度活動方針にもとづき活動しました

- ・2021年度も、第2回緊急事態宣言(1/8～3/21)が終了後の調布市では23区とともに「まん延防止等重点措置」で(4/12～5/11)が続き20時までの飲食店の時短営業等、行動の自由が奪われました。引き続き2021年4月23日に発出された第3回緊急事態宣言(4/25～5/11)は感染拡大により延長(5/31)再延長・地域拡大(～6/20解除)も発令され、沖縄1県が引き続いた後、東京都も7/12に追加地域に指定され地域拡大、9/30解除しました。この間無観客の東京オリンピックも開催されました。東京都のリバウンド防止措置(10/1～10/21)のためイベント等も制限され調布市も倣いました。その後も新たなオミクロン株による感染拡大が全国的な広がりをみせ、緊急事態

宣言はだされませんでした。まん延防止等重点措置が発令・延長（1/21～2/13, 3/6, 3/21）され、その影響で私たちの活動にも大きな影響があり、屋内および屋外での活動やイベントまで感染者数の動向に一喜一憂し、特に受託事業等は市の指示に従い、中止や延期をしました。

- ・佐須地域の公有地化した土地活用について、深大寺・佐須地域環境資源管理・活用委託事業の受託により 2020 年 12 月までの 2 年半にわたる暫定使用期間後も、有効活用について市のヒアリングや意見交換に応じその都度提案してきました。

- ・緑と公園課からは「崖線ウォーク事業」の 4 年目の事業を受託し、昨年の経験を踏まえて 1 コースのみの実施とし、ガイドウォークを「歴史」「生き物 1・2」の 3 コースで実施しました。

- ・2009（平成 21）年 3 月の設立から 12 年が経ちましたが活動拠点の確保については実現していません。また、長年、前事務局長の故江刺さんとともに事務局を担ってきた鍛冶さんが昨年度で辞めるということでしたが、人材不足もあり手伝いをしてもらいながらになりましたが、新たに少しずつ担ってもらえる人材の確保を目指しています。

1. 組織運営報告

理事会（理事 10 名 及び監事 1 名）

- ・定例理事会を隔月に行い zoom での開催を含め年 7 回開催しました。（その他理事会に変わるメールでの報告配信を行った）
 - ・受託事業業務管理については業務ごとに担当理事を決めました。
 - ・行政との懇談会（環境政策課及び緑と公園課）は 2 回行いました。
- その他環境基本計画協働推進を進めていくための方法やナラ枯れ対策（9/30）、（仮）農業公園に関する意見交換などは行政側と別途話し合いの場を設けました。

運営会議（ちょうふ環境市民会議会員）

今年度はコロナの影響で運営会議の開催はおこないませんでした。

総会

第 13 回定期総会はコロナ禍の中 5 月 16 日 15 時より、あくろすにて安部代表理事/岡部副代表理事/里副代表理事/石川理事/紺野理事/磯邊理事/中原理事/赤川監事/鍛冶（事務局）が集まり、ネットによる書面議決の確認をしました。と同時に第 6 号議案で提案した新理事の児島さん、監事の杉山さんが同席してもらい議決後のあいさつをしてもらいました。

会員からのメール質問もなく調布市内の環境政策、及びちょうふ環境市民会議への関心が薄れることへの対策が必要です。

事務局（事務局長不在 / 局員手伝い 1 / その他 会計 1）

2021（令和 3）年度事業計画の年間進行管理を各理事が分担して行いました。理事会議題案の作成や資料準備、議事録を岡部理事、個人会員・団体会員に対する連絡や行政との連絡調整などについては、引き続き鍛冶さんに手伝ってもらいました。また会費管理等会計業務（受託会計含む）事務一切を中原理事が担当しました。

会員動向 【2021年度末 会員数】（ ）内は昨年度実績

個人会員：45（47） 団体会員：13（13） 法人会員：4（5） / サポート会員：7（12）

2. 事業報告

<自主事業>

（1）交流事業

①雑木林連絡会（担当：安部・大村）

年間4回の連絡会（安全講習会を含む）を開催する予定でしたが、コロナ禍の影響で6月30日第1回連絡会、9月30日に「ナラ枯れ対策について」の臨時会、12月4日若葉第三緑地での安全講習会、第2回3月16日に開催しました。連絡会では主にナラ枯れ対策について市の対応を聞き、12月補正予算での伐倒等の対策についての報告を受けました。まん延防止重点措置等の中限られた時間で意見交換は難しく、第2回では各樹林団体の報告提出等の事務連絡が主となりました。課題は、雑木林管理計画の進捗についての意見交換（ナラ枯れ対策を含む）、市から提供物品購入について等でした。安全講習会は入間地域福祉センター（座学）と若葉3丁目緑地（実習）で実施。健全な雑木林の在り方と、下草（ササ）刈り、低木の伐採の作業実技について学びました。

また環境市民会議の企画運営による「調布がいせんウォーク 2021」にも実行委員会の段階から連絡会の保全活動団体が参加し、当日もスタッフの中心となって協力しました。

紙媒体の「調布の自然だより」が2020年1月に終刊となったため、2月から環境市民会議ホームページに「〇月の雑木林」を連載しています。連絡会メンバーの4団体が毎月、記事と写真を投稿。広報・情報交換・記録の場として定着してきました。掲載団体が増えることを期待しています。

②イベント参加・活動PR

・アースデイ in 調布2021（担当：紺野）

コロナ禍により開催されませんでした。

・調布市主催「環境フェア」（担当：里）

コロナ禍により6/5（土）開催予定は中止となりました。

・多摩川自然情報館祭り（鍛冶）

コロナ禍により開催中止

・りょくちフェス（磯邊・中原・里・岡部・安部）

11月6日（土）10：00～15：00 菊野台3丁目緑地/野川橋緑地

磯邊理事が企画していた「りょくちフェス」、野川沿いのナラ枯れについてちょうふ環境市民会議から問題提起をして欲しいとの依頼があり、参加しました。市民会議リーフレット、マッ

プ、11/28開催の崖線ウォークチラシ等を野川沿い散歩の市民等に配布し、崖線ウォークへの参加にもつながりました。新たな団体との交流もできました。

(2) 活動推進

- ・「ナラ枯れ学習会」 2月11日(土) 10時～14時半 於：東部公民館会議室

東京農工大学の吉田智弘先生を迎えて、東部公民館にて午前の座学（主に対策について、トラップ作成等）とそのまま若葉町3丁目緑地、入間町1丁目緑地、2丁目緑地の見学会を開催しました。雑木林連絡会のメンバーに声かけし、14名の参加がありました。

(3) 広報事業（担当：事務局）

- ・ホームページ（ブログ） HP基本管理1名(委託)。

4つの雑木林保全団体が毎月作業報告やフィールドのようすを写真と共に掲載しています。

その他、講座の募集時にはチラシを掲載し、申込フォームを設定しました。

アースデイ用に「ちょうふ環境市民会議」を紹介する動画を作成しましたが、コロナ禍の影響もあり環境市民会議そのもののPRはあまりできませんでした。また事業毎に取材を行いSNSへ発信しました。昨年1年間で10,000リーチを記録しました。また適宜、動画の作成を行い、YOUTUBEにUPしました。時代にあった広報戦略を行いました。

(4) 調査研究

今年度はコロナ禍の中、実施できませんでしたが、上記記載の「ナラ枯れ対策」の学習会を2月11日(土)に実施しました。

<受託事業>

(1) 雑木林ボランティア講座運営事業（担当：里・尾辻・中原+補助スタッフ2名）

6回の講座開催を企画しましたが、長引くコロナ禍の影響を受けスケジュール全般において実施期日内容の延期、変更等を余儀なくされました。

当初計画と実績成果

- ①第1回目講座開始予定6月19日を20日に変更実施、第3回講座以降1か月順延し最終回まとめ講座はバスの利用ができないことから各樹林地の見学を取りやめワークショップのみに変更しました。
- ②募集と受け付け
 - 年度初め4月の市報に掲載+チラシを作成し配布、市民会議や加盟団体のHP等によるPRや受講生OBにも拡散を依頼しました。
 - 申込受付(募集20名)は昨年同様に利便性・効率化等を図るべく“市民会議のHP内に4QRコードを設け”原則として電子受付に変更しました。
- ③コロナ禍による生活スタイルの変化によるものか不明だが参加者の意識は高く感じられた。講座終了後、カニ山へ3名の参加者がありました。引き続き講座を通じて受講生の参加意欲が増すように努めていきます。

(2) 環境保全団体・市民の交流事業（担当：児島・磯邊・鍛冶・安部）

「第13回環境活動交流会 ～みんなで語ろう調布の環境～」

12月18日（土） 午後1時～午後3時（オンライン開催）

調布市文化会館たづくり

環境保全への取り組みの理解、推進を図るため市内における環境保全団体や市民の交流を図るためのイベントの市からの受託事業として実施しました。今回もコロナ禍での交流ということで、オンライン開催とし、ZOOMによる参加と会場参加でした。団体紹介を各団体からパワーポイント資料や手書きの絵でおこないました。次に「環境かるた」の読み札を各団体から募りそれぞれの団体から発表しました。その後、各団体への質問や意見交換を行いました。これまでの団体以外からの企業（東京ガス・緑生研究会他）や都立農業高校からの参加など18団体の参加があり新鮮さが増したとの感想もありました。また、団体紹介は短縮した動画を作成し、調布市の公式YOUTUBEにてUPされました。

事前告知はチラシやメールリングリスト、11月20日号市報にて行い市民の参加も募りました。
一般参加者2名、18団体、 スタッフ6名 市職員2名

(3) 自然環境活用事業（担当：磯邊・里・安部）

前年のカニ山のマップ作製後、調布の自然について子どもたちや市民に知ってもらうことを目的として事業を継続しています。

第1回 8月1日（日）10時～11時30分 カニ山自然広場

「自然観察会 カニ山総選挙～カニ山で生き物観察をしよう～」

目的：子どもたちを対象に、身近な「カニ山の自然」を知ることを目的とし、樹液に集まった昆虫やセミの羽化などの生態を観察する。

参加者：小学生12人（保護者11人）計23人

（応募者：子ども45人、保護者49人、7/11～25日まで募集）

25日抽選、26日に当選者・落選者にメールで連絡

講師：石川和弘氏（環境部門自然環境保全分野技術士）

スタッフ：里・中原・小俣・若村・安部(5名とも環境市民会議会員)

総括：当初、夜間の観察会を予定していたが、1週間前にも夜間のムシ集めのイベントもあったことやコロナ禍でもあり昼間の開催とした。日中の暑さを避けるため「ムシたちは葉の裏にかくれる」などの説明をききビーティングネットに落ちた虫を観察した。カニ山や野草園前の草地ではバッタやチョウを追いかけていた。自分で捕った虫かごの中の昆虫の同定時には、子どもたちも保護者も目を輝かせていた。47種類の昆虫と4種の爬虫類や軟体動物が観察できた。45人の応募があり、自然観察に人気があることがわかったが、家族全員で参加できなかった家族もあったが参加人数に制限がある中では難しいといえる。コロナ禍の暑い日中での開催だったが、事故もなくイベントを終了することができた。

当初の目的であった夜間開催にむけても検討していきたい。

第2回 3月26日(日) 10時～12時 東部公民館会議室

「ナラ枯れって何?～市内でも発生、ナラ枯れのメカニズムを学ぶ～」

目的：現在、日本全国でナラ枯れの被害が続出している。市内崖線樹林地においても2年前より被害がでていいる。市でも保全団体向けに学習会を開催したが、今回、「ナラ枯れのメカニズムを知る」として市内樹林地や公園等での被害を学び、市民に何が出来るか関心をもってもらおう機会とする。

参加者：12人(他講師1人、スタッフ3人、市職員1人)計17人

(応募者14人、3月5日～20日まで市報掲載後受付)

講師：吉田智弘先生(東京農工大学農学部准教授、附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター)(森林学)

スタッフ：大村、磯邊、安部

内容：1. ナラ枯れの基礎知識

ナラ枯れとは、ナラ枯れ発生の背景、ナラ枯れ発生のプロセス
ナラ枯れのメカニズム

2. 浅間山公園におけるナラ枯れ被害

3. 現在実施されているナラ枯れ被害対策

4. ナラ枯れが生物多様性に及ぼす影響

などレジュメとパワーポイント資料に基づいて講義をうけ、質疑・意見交換を行った。

総括：参加者は、市内在住の猟友会のメンバー。造園業に携わる人、深大寺カニ山周辺在住で近隣のナラ枯れに罹患している樹木に関心のある人々の他、市外からの参加者もあった。講師から近隣自治体の対策が紹介され、トラップによる対策実施について市民団体に協力したいとお話もあった。調布市の対策(伐倒・カシナガブロック)と効果を比較検証する機会にもなると思われる。市が掲げる「プラスチックフリー」のため、トラップでクリアファイルを用いることは今後も検証が必要だが、市民団体が自主的に行うことについて協力をしてもらえとのことで各市民団体では連休中にもトラップを取り付けることを検討している。

関心のある市民も多いこともわかり、今後も自主活動として市民会議でできることを発信していきたい。

(4) 調布市環境基本計画協働推事業

1. 環境リーダー等育成のための仕組みづくりの検討結果に基づく環境講座の運営

(担当：大村・えねこや)

今年度は、昨年度に続いて小学生とその保護者が再生可能エネルギーを学ぶ体験型ワークショップ「環境講座2021 自然のチカラで電気をつくろう」(全2回講座)を実施しました。親子がともに楽しく学び、作業することを通じて、今の世代と未来世代が調布と地球環境への意識を高め、暮らしの中の行動につなげる機会とするのがねらいです。

講師は、多摩市立小中学校の総合学習授業で指導の実績がある小林昭一氏。企画・運営スタッフとして、市民会議の法人会員である（一社）えねこや・（一社）調布未来のエネルギー協議会の協力を得ました。

受講者は市内在住または在学の小学校3年～6年生とその保護者とし、合計約20名（10組）を募集。小学生11名、保護者10名（2回の延べ受講者37名）が受講しました。実施日には、新型コロナウイルスの感染者が減少していましたが、会場の消毒・換気を行い、受付で受講者の健康状態を確認、手指消毒・マスク着用を求めるなど、感染防止に努めました。

第1回 風力発電装置の工作と体験など

11月14日（日） 13:30～16:30

実施場所：染地ふれあいの家

受講者：15名（小学生8名 保護者7名）

制作した風車（発電装置）を屋上に設置して、実際に発電できることを確認。

断熱ボックス・使用電力比べ（体験用キット）を使って、省エネの工夫を体験。

開講に当たり、短いレクチャー「地球温暖化と温室効果ガス」を行い、地球環境の変化をスライドでわかりやすく示し、講座の趣旨を説明しました。

第2回 水力発電装置の工作と体験など

11月21日（日） 13:30～16:30

実施場所：佐須ふれあいの家

受講者：22名（小学生11名 保護者10名）

制作した水車（発電装置）を佐須用水に設置して、実際に発電できることを確認。

牛乳パックと小型太陽光発電パネルによるランタンを製作。

保護者向けのミニ講座として、既存住宅での断熱改修の実例を紹介。

補足：「イルミネーション RE100」について

昨年度に続き、本講座で発電・蓄電した再エネ電気を使ったイルミネーションの点灯が12月11日（土）、「てつみち」で行われました。京王電鉄が主催、調布市が後援し（今年度から）、（一社）えねこやと（一社）調布未来のエネルギー協議会が企画・運営を担当しました。

【成果】

本講座がねらいとした「親子がともに楽しく学び、作業することを通じて、今の世代と未来世代が調布と地球環境への意識を高め、暮らしの中の行動につなげる機会とする」は、ほぼ達成できたと考えます。受講者アンケートからも、次のような点がうかがえました。

①「参加型・ワークショップ型」としたことで、受講者が積極的に講座に参加し、かつ楽しんでいました。

②発電装置の工作と発電体験を通じて、再エネの可能性を小学生も実感できた。電気器具の「使用電力比べ」、断熱性能を体感できる「断熱ボックス」を通じて、小学生にも省エネが「自分ごと」になった。既存住宅の断熱改修のミニ講座は保護者たちが熱心に聴いていた。

③子どもも大人も、目を輝かせて風車や水車を見つめていた。普段はあまり意識しない「自然のチカラ」に感動し、調布の自然のすばらしさへの気づきや再認識につながった。

【課題】

①風車・水車材料の脱プラスチック化を追求

今年度は木製の水車を試作したが、実際には工作に要する時間などの問題で採用できませんでした。さらに工夫を続ける必要があります。

②佐須用水での発電でアピール

今年度は佐須用水での発電が短時間で終わってしまいました。来年度は、発電を数時間続けて簡単なイルミネーション点灯を行うことを検討。地域住民にも見てもらって、調布の「緑の資産」国分寺崖線・佐須用水への理解を広げ深める機会としたいと思います。

③ノウハウの記録・継承を

2年度にわたってほぼ同じ内容で講座を実施したことで、ノウハウが蓄積されてきました。さらに進化した内容でこの講座を続け、広げていくことが望ましいので、これまでの実績を記録した、未経験のスタッフが利用できるマニュアルができると便利です。

(5) 国分寺崖線ウォークイベント事業

(担当：大村・安部・神山・鍛冶・磯邊・児島・荒井)

11月28日(日) 9:00~14:00 仙川駅前公園

国分寺崖線の保全活動をひろく市民に周知し、人材育成と環境教育の一環等を目的として昨年度と同様に事業が採択され、11月28日(日)7時40分~14時に快晴の天気の中実施しました。雑木林連絡会のメンバーを中心に企画運営のための7回の実行委員会の他、実踏やスタッフ説明会等を開催し「安全確保」を重点にしたスタッフ配置で実施しました。実行委員会では、コースについて検討し、昨年と同様のコースとし、ガイドツアーを増やすことにしました。仙川駅前公園を出発点とし、ゴール地点をカニ山としたコースは前年同様で、歴史1コース、生き物2コースとしました。コースは①約8.3kmのコースを自由に歩く、②ガイドツアー付きで、歴史コースと生き物コース2班と2通りを設定し、受付時間は8時半から9時半まで、かに山ゴール地点には13時前までに全員が到着、13時半参加者解散とし、スタッフが振り返りを行いました。

受付会場の仙川駅前公園では、受付テントを用意し目立たせ、参加者への目印としました。また、実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者にはマスク着用、手指のアルコール消毒、事前の検温と体調の確認を行いました。

参加者は定員を80名で募集し90名の応募がありましたが、大人53人、子ども17人の合計70人でした。6歳から70代までと幅広い年代の参加で、ガイドウォークの歴史コース15人(大人14、小学生1)、生き物2コースで13人(6家族大人8、小学生5)でした。生き物コースは家族連れの参加が多数で、6名グループや友達親子グループの申し込みなどもありグループの全員参加は課題です。参加者の申込み受付は、ウェブ上の申し込みフォームとチラシとポスターにQRコードを掲示しました。市報は11月5日号での広報とし、11月5日よりウェブ上で受け付けました。定員80人に対し90人の申込がありガイド付きコースは抽選になりました。抽選からはずれた人は自由ウォーキングに登録してもらい、申込締め切り日前の15日には受付を終了しました。

今年度も、新型コロナウイルス感染症感染拡大の中、市主催他多くのイベントが中止になる中での開催となりました。前年同様、3密を避け、マスク着用、アルコール消毒等の準備をしました。つつじヶ丘公園での紙コップを準備して各自で受け取る、カニ山においても飲み物汁物の提供は中止し焼き芋と焼きマシュマロを一人ずつで受け取るように工夫するなど例年とは異なる対応をとり、結果無事故で安全に実施することができました。参加者からは概ね好評であり、市民が自然に親しむ機会の提供や国分寺崖線の成り立ちや地形、文化的・歴史的背景、保全活動の様子、生き物のことがよくわかったなど、高い評価が得られ、当初の目的にかなった事業となりました。

*上記（１）～（５）の受託事業はプロジェクト方式で運営しました。

■第2号議案 2021年度収支報告				[自2021年4月1日 至 2022年3月31日]	
				単位:円	
			予算	決算額	
収入	活動準備金		908,364	908,364	前年度繰越金
	会費	正会員 個人	52,000	42,000	
		正会員 団体	13,000	13,000	
		正会員 法人	12,000	12,000	
		サポーター 個人	6,000	3,500	
		小計		83,000	70,500
	事業	自主事業	15,000	0	コロナ感染拡大のため集合イベント中止
		受託事業	1,797,400	1,797,400	環境学習事業/基本計画推進事業/崖線ウォーク
		小計	1,812,400	1,797,400	
	寄付金		200,000	365,037	受託事業関連:284,410
	雑収入		0	35,007	積立金解約35,000円 利子
	収入合計		3,003,764	3,176,308	
支出	事業費	自主事業			
		交流事業費	30,000	26,000	雑木林連絡会 ナラ枯れ講習
		活動推進事業費	50,000	0	コロナ感染拡大のため集合イベント中止
		広報事業費	100,000	71,759	HP維持管理 ネットメイン
		調査研究・学習費	20,000	10,000	データ収集管理
			200,000	107,759	
	受託事業		1,797,400	1,797,400	環境学習事業/基本計画推進事業/崖線ウォーク 事務局人件費含む
		小計	1,997,400	1,905,159	
	管理費	旅費交通費	28,000	21,000	理事会等交通費
		会議費	7,000	6,465	総会・理事会資料代
		通信費	2,000	0	
		事務用品・消耗品	80,000	42,024	デジタルカメラ購入
		雑費	30,000	110	
		事務局人件費	44,000	44,000	会計 メールリスト管理
		小計	191,000	113,599	
	支出合計		2,188,400	2,018,758	
特別	記録誌積立		5,000	5,000	
会計	什器備品積立(カメラ等電子機器)		10,000	10,000	
	小計		15,000	15,000	
次年度活動準備金			800,364	1,142,550	
特別会計積立金累計					
			2020年度まで	2021年度積立	累計
記録誌積立			40,000	5,000	45,000
什器備品積立			20,000	10,000	30,000

■第3号議案 2021年度監査報告

2022年4月9日、会計担当理事の立ち会いのもと、監査を行いました。

1. 2021年度収支報告に相違はありません。
1. 領収書等証票類に間違いはありません。
1. 業務執行は適切に行われています。

2022年4月9日

監事 杉山 典子

■第4号議案 2022年度活動方針事業計画（案）

○規約にかかげた活動目的・方針にもとづき、活動を楽しく行います。

- ・東日本大震災後、11年が過ぎ都市に住む市民の暮らし方が、電力・プラスチック・水資源等の消費が問われ続けています。暮らしを根本から見直し行動する「私から始めるエコライフ」の活動に引き続き取り組みます。また、新型コロナウイルス感染防止対策など、新たな市民生活への制限に関わる事態も生じてきています。私たちの生活様式の変化を余儀なくされる中、環境にやさしい生活・持続可能な社会をめざした暮らしを考えていきます。
- ・調布市の自然環境をはじめとする「環境」について、環境を考える市民・事業者・団体に向けて活動で得られた情報や知恵を共有できるよう連携して活動していきます。
- ・市民・活動団体・企業等との連携を図るプラットフォームとしての役割を担う上で必要となる、市民向け環境情報の受発信の基地等についても検討していきます。
- ・予算要望活動により、これまでの環境学習交流推進事業委託の他に、前年度に引き続き ①環境基本計画を実効性のある計画とするための環境学習のための講座開催②国分寺崖線ウォークイベント事業の業務受託を行います。

また、環境基本計画の中間見直しを行うなかで、ちょうふ環境市民会議が市民との協働の実践を実質的に担う位置づけられ、その役割と責任が大きくなっています。若い理事や事務局補助の参加により、多様で柔軟な視点を取り入れながら、2022年度もプロジェクト(PJ)ごとに事業実施に取り組みます。

これら多岐にわたる委託事業や自主事業を継続していくプロジェクトチーム(PJ)には、多くの会員のご協力が必要です。引き続きの協力をお願いいたします。

- ・今後も継続して環境保全活動を担う人材確保のため組織運営の再構築についても検討します。

※ 「第14回定期総会」は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のためメール配信により書面議決とさせていただきます。

1. 組織運営

理事会（新理事1名含む理事9名 及び監事1名）

- ・定例理事会の開催。
- ・行政との懇談会（環境政策課及び緑と公園課）では市民ならではの企画を活かした事業提案や行政に対する要望等について話し合いをします。行政施策への提言も行います。

運営会議（環境市民会議会員）

理事以外の会員の意見を取り入れる場として運営会議を開きます。

総会

年1回開催。

事務局（事務局員不在・会計1名）

行政との窓口、その他事務一切を担える方を引き続き募集しています。

<自主事業>

（1）交流事業

- ・各種イベント参加による、ちょうふ環境市民会議の活動紹介と交流
「ちょうふしぜんフェスタ2」
5月5日（木）10：00～15：30 調布駅前広場
他、イベントでのPRを行います。
- ・コーディネート活動（雑木林連絡会事務局 その他活動支援など）

（2）活動推進事業

- ・前年度「調布の自然学習ボランティア」の会からの寄付金を活用して子どものためのワークショップの開催を引き続き検討していきます。

（3）広報事業

- ・SNS（Facebook、Instagram）をベースとした広報活動。ちょうふ環境市民会議のホームページのみならず、Facebook 調布交流会等、他のグループにも随時発信し、存在をアピールします。それにより若い新規会員の獲得を目標にします。MLも継続し、また動画の記録になるため、Youtubeも可能な限り制作を予定しています。
「ちょうふの自然だより」の冊子化は継続します。
「ちょうふ環境市民会議」のリーフレットを作成します。

（4）調査研究活動（学習会他）

- ・深大寺・佐須の里山保全、また、崖線樹林地の緑地保全や樹林の継続的な保全についての共通認識をもつために自主事業の一つとして他の環境保全団体の視察等を行う予定です。

(5) 提言活動

- ・環境基本計画の実施状況等のみならず、環境全般について会員が得た情報の中から課題となる事項を取り上げ政策提言等行います。

<受託事業>

(1) 雑木林ボランティア講座運営事業

- 新型コロナ感染禍にあるが、感染防止策を図りつつ、開講日を5月21日とし全講座6回の講座カリキュラムで実施計予定です。
- 4月5日号の市報に募集掲載し・チラシ・ポスターを作成し配布による広宣のほか市民会議HP等での講座PR・拡散を依頼。
受付は4月11日～4月25日まで原則として市民会議HPにて実施しています。

(2) 環境保全団体・市民の交流事業

たづくりギャラリーでの交流会はコロナ禍ということを鑑み、オープンスペースもしくはWeb開催での交流会を予定しています。また、同時に野川クリーンや猫ボランティア等の環境面での施策も広く市民に知って頂く場も設けようと思っています。

(3) 自然環境活用事業

今年度も、子ども対象の事業（7月16日 or 7月23日夕、夏休み・夜間の生き物観察）と時宜にあった大人向けのイベントもしくは学習会を企画していきます。

(4) 環境リーダー等育成講座企画運営事業

- 新型コロナウイルス感染症の終息が見通せず、次のような枠組みで検討を進めていきます。
- ② 実施時期は昨年度と同じ11月を予定。
 - ② 昨年度の「自然のチカラで電気をつくろう」（全2回講座）とほぼ同じ、小学生とその保護者が再生可能エネルギーや省エネについて楽しく学べる、体験型ワークショップを予定しています。
 - ③ 企画・運営には（一社）えねこや、（一社）調布未来のエネルギー協議会の協力を得て、昨年度の成果と課題を踏まえ、具体的内容を検討します。

(5) 国分寺崖線ウォーク

実行委員会による企画運営で12月上旬か11月下旬の日曜日に実施予定です。コース設定等、実行委員会で検討していきます。

■第5号議案 2022年度予算(案)

[自 2022年 契約日から 至2023年3月31日]

単位:円

		前年決算額	22年予算	内訳
収入	活動準備金	908,364	1,142,550	前年度繰越金
	会費			
	正会員 個人	42,000	48,000	
	正会員 団体	13,000	13,000	
	正会員 法人	12,000	12,000	
	サポーター 個人	3,500	5,000	
	小計	70,500	78,000	
	事業			
	自主事業	0	15,000	
	受託事業	1,797,400	1,797,400	環境学習/環境基本計画推進/崖線ウォーク
	小計	1,797,400	1,812,400	
	寄付金	365,037	250,000	
	雑収入	35,007	0	
	収入合計	3,176,308	3,282,950	
支出	事業費			
	自主事業			
	交流事業費	26,000	180,000	雑木林連絡会 関連団体等事業支援
	活動推進事業費	0	50,000	子供向けイベントなど2回開催
	広報事業費	71,759	120,000	HP維持管理 広報活動 ネットメイン
	調査研究費	10,000	20,000	データ収集 学習事業
		107,759	370,000	
	受託事業	1,797,400	1,797,400	事務局人件費含む
	小計	1,905,159	2,167,400	
	管理費			
	旅費交通費	21,000	25,000	理事会出席交通費
	会議費	6,465	7,000	総会関連 理事会資料等
	通信費	0	2,000	資料郵送等
	事務用品・消耗品	42,024	50,000	
	雑費	110	20,000	
	事務局人件費	44,000	44,000	会計 M/サ管理
	小計	113,599	148,000	
	支出合計	2,018,758	2,315,400	
	差引(収入-支出)	1,157,550	967,550	
特別	記録誌積立	5,000	5,000	
会計	什器備品積立	10,000	10,000	
	小計	15,000	15,000	
	次年度活動準備金	1,142,550	952,550	